

Myojo Gakuen Junior High School

# Myojo



明星学園中学校・高等学校

中学校 入学者向け



写真は通学路となる井の頭公園です。





エスカレーター  
付属大学はない。すすむみち進路は、自分でつかまえる。

明星学園は“自由な学校”と言われますが

決して“ラクができる学校”という意味ではありません。

一方的に知識を教え込むという教育の場ではなく

自発的に知性と自由を獲得することのできる学校です。

様々な個性を見守ることのできる幅の広さと厳しさを持つこの学校で

失敗を恐れず様々な経験を通じて

自分自身の進路（すすむみち）をつかみとってください。





吉祥寺駅  
南口(公園側)



玉川上水緑道

# 明星学園周辺の豊かな環境

## 井の頭公園と三鷹・武蔵野の自然と文化



玉川上水緑道  
「風の散歩道」



井の頭公園  
七井橋



### 明星学園行進歌 (作詞:北原白秋)

1934年当時、明星学園に通っていた長女の学芸会を觀に来た北原白秋氏に、本校の赤井米吉がこの歌の作詞を依頼した。ご本人に快諾いただき、学園の校歌として歌われ続けている。

### 「はな子」の銅像

誰からも愛され、2016年に井の頭自然文化園で69年の生涯を終えたアジアソウ「はな子」。銅像の原型制作は、明星学園卒業生で「はな子」を描き続けてきた美術家の笛田亜希さんです。

← 高尾方面

J R 三 鷹 駅

### 国木田独歩の碑



### 太宰治文学サロン

周辺には19か所の太宰ゆかりの場所があり、多くの太宰ファンが訪れます。文学サロンは太宰が通い、小説「十二月八日」にも登場する「伊勢元酒店」跡地にあり、貴重な資料・写真が展示されています。



### 風の散歩道

三鷹駅から学校までのんびり歩くのに気持ちの良い明るい散歩道。ジブリ美術館に向かう海外からの旅行者の姿も多いです。

J R 中 央 線

J R 吉 祥 寺 駅

新宿方面 →

明星学園は今から約100年前※の

大正13年(1924年)に創立されました。

“子どもの成長には

自然豊かな地が不可欠”として、

池や林のある井の頭の地に建設されたのです。

他にも三鷹・武蔵野は古くから豊かな

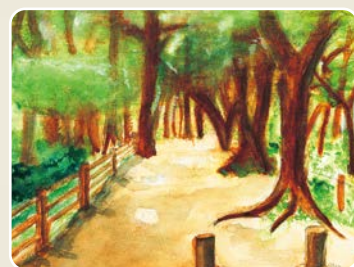
自然と文化が息づく街です。



井の頭自然文化園



玉川上水  
三鷹市  
山本有三記念館



玉川上水緑道  
自然豊かな緑道。放課後には自主練でランニングをする生徒の姿もあります。

### 野口雨情歌碑

雨情は「青い眼の人形」「赤い靴」「しゃぼん玉」「七つの子」などで有名な童謡詩人。明星学園の保護者でもありました。



井の頭公園  
お茶の水

### 井の頭弁財天



### 井の頭自然文化園分園

動物園(本園)と水生物園(分園)に分かれています。分園はまさに通学路にあり、都内の中学生は入場無料のため、生物好きの生徒は必見です。



### 井の頭池

吉祥寺駅からの通学路となる七井橋からは四季折々の風景が眺められます。池の“かいぼり”には本校の生徒もボランティアとして参加しています。

井の頭公園駅  
京王井の頭線



### 武者小路実篤旧居跡

実篤は「友情」「お目出たき人」などを執筆した白樺派の小説家。2人の娘さんと7人のお孫さんは明星学園に通っていました。

### 井の頭公園西園

400mトラックがあり、放課後には陸上部をはじめ明星学園の生徒も多く利用しています。

### 新橋

橋名板の文字は明星学園の小学生と中学生が担当しました。入水した太宰を発見したのは本校の若き教員であり、まさにこの場所でした。

明星学園小学校  
明星学園中学校



明星学園  
高等学校



三鷹の森ジブリ美術館

井の頭公園  
野球場

### ● 禅林寺(太宰治・森林太郎の墓)

遺言により一切の栄誉と称号を排して「森林太郎ノ墓」とのみ刻された森鷗外の墓と、その向かいには彼を尊敬していた太宰の墓が建っています。6月19日の桜桃忌と7月9日の鵬外忌には多くの文学ファンが訪れます。

周辺マップ用のイラストを  
中学生が描きました。



## 校長あいさつ



教育理念

## 個性尊重、自主自立、自由平等

仲間との協同の中で育まれる

自由と自主自立が君の個性を開花させる

明星学園中学校・高等学校 校長 平野 康弘

明星学園の教育理念である「個性尊重」とは、君たち一人ひとりの可能性を信じ、大切にすることを意味しています。つまり、君たちが自分の「自由」と「自主自立」を拡大しながら、自分の夢や目標に向かって歩み続けて行く先に、自分の個性、すなわち君自身の「可能性」が花開いていくものと信じているのです。

明星学園の校名には、「輝く星をみつめ、その輝きに向かって伸びよう、登ろうとする子どもたち」を育てるという理想と思いが込められています。輝く星とは、君たち一人ひとりの「夢や目標」のことです。一人ひとりが他者に支えられながら自分の夢と目標に向かって努力して、自分を高めようと登り続けるとき、その姿は輝きを放ち、他の人の支えともなっていくでしょう。

3つ目の教育理念「自由平等」とはどういう意味でしょう？ 自由とは『自分勝手』や『何にも

縛られない』という意味ではありません。明星学園の言う自由とは、「精神の自由」であり「自分の頭でよく考え、自分を含めた周りの社会がより良くなるように、自分の行動や言動を選択していく自由」を意味するのです。自分と他者の両方の存在を意識して尊重してこそこの自由だという意味を込めて「自由平等」がセットなのです。

明星学園が目指す3つの教育理念の実現のためには、他者の存在、すなわち場を共有する仲間の存在が不可欠です。お互いを認め合うクラスの仲間、学年の仲間、クラブの仲間、他学年も含めた学校の仲間。さらには、授業の場、学校生活の場を共に歩む先生たちという仲間の存在も必要です。あらゆる仲間を、自分と共に尊重し大切にして、すばらしい学校生活を一緒に創り上げていきましょう。そして、自分の輝く星を見付けて歩み続けましょう。

## 建学の精神

明星学園は大正デモクラシーの機運の中で新教育の学校として1924年に誕生しました。新教育とは断片的な知識の詰め込みだけだった従来の教育から、子どもの感性を大事にする教育へと転換を図る教育運動です。

そのために子どもの成長にとって大切な自然豊かな地として、池や林のある井の頭に学校を建設することにしました。

学びとは本来、主体的・探究的なものであり、それらが自己を確立していくのです。

子どもたちの「なぜ、どうして」に応え、「知りたい、やりたい」という欲求や、「話したい、伝えたい」という表現を大切にすることが教育だといえます。

明星学園は、教育の内容と教育の方法を一体のものとして研究を積み重ね、その成果のもとに子どもたちと向き合います。

## 中学校と高等学校の6年間を使って、夢や目標の実現に向けた教育プログラムを構成しています

中学校では基礎・基本学力を定着させながら、自分で疑問を見つけ、考え、対話し、発見する力を育みます。

中学3年生の1年間は「卒業研究」に取り組み、主体性・思考力・表現力の総合化を図ります。

高等学校2年次には、それぞれが希望する進路へ向けて、文系/理系/実技系（体育、音楽、美術、家政）の中からコースを選択します。

各進路に応じた「選択授業」が多彩で、専門的なカリキュラムが充実しているのが特徴です。このような教育環境のなかで大切なのは、偏差値だけで志望校を選ぶのではなく、自分の意志で進路を決定することです。

それには中学校時代にかに多様な他者と出会い、しっかりと自分自身と向き合ってきたかが問われます。

中学校3年間の学びは単に知識を詰め込むだけではなく、社会に出てからも主体的に生きる基礎となるのです。

### 中学1年生の時間割例

|   | MON  | TUE  | WED    | THU | FRI   | SAT |
|---|------|------|--------|-----|-------|-----|
| 1 | 英語   | 体育   | 英語     | 社会  | 英語    | 美術  |
| 2 | 理科   | 哲学対話 | 数学     | 国語  | 数学    |     |
| 3 | 総合英語 | 国語   | 体育     | 音楽  | 国語    | 社会  |
| 4 | 体育   | 数学   | 図書館と情報 | 理科  | 理科    | 国語  |
| 5 | 音楽   | 社会   | ホームルーム | 数学  | 木工・工芸 |     |
| 6 | 社会   | 理科   |        | 英語  |       |     |

### 高校3年生の時間割例（文系コースのイメージ）

|   | MON         | TUE        | WED    | THU         | FRI    | SAT |
|---|-------------|------------|--------|-------------|--------|-----|
| 1 | 球技(体育)      | 政治経済       | 現代文    | 政治経済        | 時事英語   | 現代文 |
| 2 |             |            |        |             |        |     |
| 3 | コミュニケーション英語 | 古文         | 世界史    | コミュニケーション英語 | 古文     | 世界史 |
| 4 |             |            |        |             |        |     |
| 5 | 【自由選択】      | 現代社会論考(総合) | ホームルーム | 【自由選択】      | 【自由選択】 |     |
| 6 |             |            |        |             |        |     |

■の枠はコース別必修授業です。■の枠が選択授業です。  
火・木・金の1・2時間目はコースの設定に関係なく選択できる「選択必修授業」。  
水以外の5・6時間目は「自由選択枠授業（そのうち一つは総合的な学習）」。

| 選択授業名 「選択必修授業」「自由選択授業」を併記しています。 |        |           |          |       |        |
|---------------------------------|--------|-----------|----------|-------|--------|
| 近代文学                            | 理系国語   | 古典(漢文)    | 倫理       | 政治経済  | 数学Ⅲ    |
| 数学ⅠAⅡB                          | 数学B    | 生化学実験     | 地学(地球)   | 読解演習  | 文法演習   |
| 英語表現                            | 英会話    | 時事英語      | 素材技法     | デザイン  | CGデザイン |
| 音楽鑑賞                            | ボーカル   | キーボード     | 卓球       | 手芸    |        |
| 哲学                              | 理科研究   | 地学(宇宙)    | 文系生物基礎演習 | リスニング | 中国語    |
| ボイストレーニング                       | アンサンブル | オペラミュージカル | 染色       | 華道    | サッカー男女 |
| バスケットボール                        | バドミントン | ハンドボール    | ダンス      |       |        |

# 明星学園の “探究する学び”とは？



## 自分で考える

課題解決型の授業などを通じて、自分で感じて仮説を立て、自ら表現する能力を育みます。



## 世界を広げる

授業や行事を通して積極的に新しい知識、価値観や異文化と出会い、自分の世界を広げます。



## ともに成長する

自分の意見を発表する機会が多く用意され、他者との対話を通じて思考を深め、協同<sup>\*</sup>性を獲得します。

## 明星学園の伝統である“探究する学び”を通じて 身につけるのは主体的に考えるちから

授業は生徒が自分の心で感じて、自分の頭で考えることからスタートします。提示された課題に対する生徒たちの「なぜだろう?」「何が正しいのか?」という疑問や感じた思いを大切に、課題を解決するための仮説をみんなが自分で考えます。

教室の中には生徒それぞれの視点から「こうじゃないだろうか?」というたくさんの仮説が生まれますが、それらの意見を交流させて結論を探ることによって主体的な学びが生まれるのです。

結果的に間違いになる仮説もありますが、課題解決のためにはどれも大切な意見です。

このように簡単に解答を提示するのではなく、共同<sup>\*</sup>で探究することによって、多様な考え方があること、間違いを恐れる必要がないことなどを経験できる授業形式は明星学園の伝統です。共同で探究する授業を通じて単なる学力だけではなく、教養としての知識や人に伝えるための表現力、他

者の考えを大切に社会性が育まれるのです。

授業以外の活動でも、生徒が新しい発見をできるようなさまざまな体験学習をはじめ、異文化や学校外の社会との出会いを積極的に用意しています。

さらに各学年に総合探究科の授業を配置、中学1年生では哲学的なテーマを取り扱ったり、情報の扱い方を学習し、自ら課題を発見して、クリエイティブな発想で問題を解決するための基礎的な学習を行います。

2年生ではそれらを実践するためのフィールドワークを含むプロジェクト型の学習を、3年生では自らテーマを設定して1年間をかけて研究に向かいます。最終的には文章にまとめ、全員がプレゼンテーションを行います。

明星学園中学校では中学生という多くの可能性に満ちた時期に、将来必要となる“探究するちから”の基礎を築き上げます。

北極圏で暮らす人々

シオラパルク(グリーンランド)

人々は生活できた?

北極圏=イヌイット(エスキモー)

1年生による  
社会科授業の  
ノートです

課題が提示される

イヌイットとは...  
グリーンランドからカナダ、アラスカなど、北極に近い場所に昔から住んでいる人々。

課題  
イヌイットはアザラシをどのように食べるか?  
①はやく②は遅く③はむす④はかきこらす⑤はかきこらす⑥はかきこらす⑦はかきこらす⑧はかきこらす⑨はかきこらす⑩はかきこらす

自分の考え  
①だこ思っ。

なぜかと言うと、こりあえす肉は火を通さないで食べられな  
いと思っし、②をすればあたたくおいしくなるから。

みんなの考え  
①さしみ 10人  
②やく 10人  
③にろ 2人  
④むす 0人  
⑤ほす 9人  
⑥こあす 3人  
⑦つもの 0人

まず自分で考えてみよう  
これまでに学んだ知識などを  
総動員して仮説を立ててみる。

みんなはどう考えたんだろう?  
生徒たちそれぞれが仮説を発表する。

理由  
③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩は害虫対策②見たことない。  
④⑤火を通した方がよい。  
⑥⑦⑧⑨⑩はセーラーたいさくマ  
⑥⑦⑧⑨⑩はアイヌの食べ方でルイベがある。  
⑥⑦⑧⑨⑩はさしみのこあす、調味料のことを考えると...

解答を書き写すのではなく、クラスメイトと共同で思考  
していく様子や授業の流れ、その時の自分が考えたこと  
などをていねいにノートに記録しています。

主体的に探究することで、単純な記憶ではなく深い理  
解へと発展させることが可能になるのです。

授業の特色紹介 ノートづくり[社会科授業の例]

## ノートに書くのは 解答ではなく探究の記録

授業の特色である「ノートづくり」は探究する学びを  
サポートするために長年続けられています。

5④こあすからかんそうさせる。短時間でできる。  
⑤長時間火をつかうのはムリや干すのはいつてもできる。  
⑥⑦⑧⑨⑩は害虫対策②見たことない。  
④⑤火を通した方がよい。害虫はいなくなる。  
⑥⑦⑧⑨⑩はセーラーたいさくマ  
⑥⑦⑧⑨⑩はアイヌの食べ方でルイベがある。  
⑥⑦⑧⑨⑩はさしみのこあす、調味料のことを考えると...

さまざまな  
意見や予想が  
生まれる

はんろん  
①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩は害虫対策②見たことない。  
④⑤火を通した方がよい。害虫はいなくなる。  
⑥⑦⑧⑨⑩はセーラーたいさくマ  
⑥⑦⑧⑨⑩はアイヌの食べ方でルイベがある。  
⑥⑦⑧⑨⑩はさしみのこあす、調味料のことを考えると...

それぞれの視点に刺激を  
受けながら  
さらに議論を深めていく。

ちがう意見を聞いて  
さらに自分で考えてみる  
議論を通じて  
自分の思考を深化させる。

私は焼くにする。や、ばり意見は変えない?

結果  
1. そのままだった?

わかったこと  
野菜が育たないの、ビタミンがとれない。加熱されると肉  
のビタミンがなくなってしまう。なのでビタミンをとるために  
そのまま生肉を食べる?

主体的に学ぶことによって考えるちからと  
深い理解を得ることができます。

生徒の理解状況を把握  
するために、教員が確認して  
コメントなどを返します。

## 教科横断的な学習を通じて 自ら課題を発見して 解決する能力を育てます

明星学園独自の「総合探究科」が、各教科で得た  
知識と教科外活動での経験を結びつけます。  
そこで主体的に考えるちからを身につけた生徒たち  
はさらに高い意欲を持って学習に向かいます。



<sup>\*</sup> 個々が対等の関係の中、それぞれの個を高めるために集団が働きあうことを「共同」、それぞれの役割をみつけ、集団で協力しながらある目標の達成を  
目指すことを「協同」と表記し、区別しています。明星学園には2つの「きょうどう」の場面が多く用意され、多様な個性が響き合う中で、個と集団の成長を促します。



# 国語科

国語の能力は  
思考する力に繋がります

読解力を支える文法、語彙、論理力を伸ばし、詩の創作やプレゼンテーションを通じて表現力も広げる授業を展開しています。正確に読み解き、それをもとに考えて想像し、自らの言葉で表現することは、思考するために必要な一連の能力です。

古典的な名文から最新の新書まで幅広い時代・分野の中から常に適切な教材を選びますが、文庫本一冊を教材として扱うこともあります。まとまった量の文章を時間をかけて読むことで、作品全体を感じとる力を養い、筆者の主張や作品の描写を深く味わい理解できるようになるのです。

授業内で「なぜそのような解釈になるのか?」を生徒どうしが議論する場が多く用意され、それまでに学んだ知識をベースに「意見を述べる・質問する・答える」という共同的な学習を繰り返し、教わるだけではなく主体的に学ぶ力を育て深めていきます。



# 社会科

歴史に学び、現代社会を見つめ  
未来に思いをはせる

わたしたちが生きている社会がどのようなになっているのか、そのしくみや由来、成り立ちについて理解し、さらにその社会の中で自らがどのように生きていくかを探究していくことが目的です。

中学校社会科の3分野である地理・歴史・公民の中でも、とりわけ東アジアの歴史学習に重点をおき、現代社会を自分の目で見て考える力を養っていきます。

授業内では生徒それぞれが自由に発想し、考えを筋道立てて説明します。違う視点や意見を尊重して分析したり総合的にとらえながら考えを進めていきます。

生徒にとって身近なところから課題を見出して、その背後にある現代社会のしくみや人々の歩んだ歴史から解決に向けた議論を行います。

時には疑問解決のために教室を出て「現場」に出かけて学んだり、「専門家」を招いて講演会や意見交換会を行ったりと、学内にとどまらない学びを行っています。

# 数学科

「なぜ?」という思いを大切に  
主体的に学べる授業を展開します

多くの生徒が小学校の「算数」から中学校の「数学」に移行する際に大きなギャップを感じるはずですが。

なぜならば、「算数」では身近で具体的なものに置き換えられていたのに、「数学」になると記号を使った抽象的な世界になってしまうからです。そのため抽象的な概念の獲得だけを目的にどんどん進めてしまうと数学嫌いを生み出すことになります。

授業では「数学」の世界にすんなり入るために生徒にとって想像しやすい現実感のあることから取りかかります。

早くスマートな答えを出すことだけが目的ではなく、生徒の「なぜ?」「どうして?」という思いを大切にすることで、主体的に学習に取り組める授業を展開しています。

提示された課題に対して生徒それぞれが仮説を立て、議論などをしながら共同で解答を求めています。そのような経験の中で、ひも解くことの面白さを感じながら本質的な理解を得ることになるのです。

# 英語科

“気づき”を活かして  
“わかる”から“使える”へ導く

授業で表現や文法を新しく学ぶ際には、まず教員が口頭で話し聞かせることから始めます。新しい表現や文法を繰り返し耳にするなかで、生徒たちは「きっとこんな意味かな?」「あっ、こんな言い方してる!」「こういうパターンがあるみたいだ」とさまざまなことに気づいていきます。

このように、生徒が“気づいたこと”を他の生徒や教員と共有・確認しながら、正しい文法のしくみを“わかる”というステップに進めます。

このように英語を機械的に覚えるのではなく、気づきをきっかけに学習することによって、うわべだけではない深い理解に繋がります。

わかったことを繰り返し練習し、“習熟する”というステップまで到達すると、より深く応用がきく英語力を獲得することができます。“できる・使える”というステップまで大きく広げるために、さまざまな活動を通して「話す・聞く・読む・書く」という実践的な要素を取り入れています。



# 理科

授業は生徒たちが行う  
「自然科学の共同研究」

理科の授業は生徒たちが行う「自然科学の共同研究」です。科学者が行っている自然科学の研究には必ずテーマがありますが、授業ではそれを「課題」と呼びます。

提示された課題に対して生徒たちそれぞれが予想を立てるところから授業は進められますが、生徒たちの視点や予想はさまざまで、多様な意見が発表されます。

異なる考えに対して質問や反論がなされ、検討を重ねて生徒たちが集団的に課題を解決していきます。

最終的には実験で結果を確かめて、わかったことを考察としてノートにまとめます。それぞれの生徒が書いたノートは自身のための教科書となり、研究をまとめた「論文」ともいえるのです。

これは生徒たちによる「共同研究」であり、非常に重要な作業です。このような授業を経験することによって、自然をとらえる眼が養われ、自然現象がよりよく理解できるようになります。

# 保健体育科

それぞれの役割の中で  
スポーツと身体のしくみを学ぶ

体育ではスポーツのルールや身体のしくみを正しく理解しながら、目的をもって身体を動かすことを学習します。

グループ学習を中心に授業を行い、仲間の動きを観察して発見することで、自らの身体の動かし方を変えていくことを可能にします。

グループにはスポーツが得意だったり不得意だったりさまざまな個性が存在します。その中でお互いの特性と役割を理解しながら、目標に対して互いに影響を与えあって一人ひとりが成長できる授業を展開しています。

保健の授業では、生命のはじまりからヒトが生まれ育っていく過程と身体のしくみ・健康について学びます。

目の前で起こる自分自身の成長や発達にも大きく関わる心と身体との関係を学習しながら、視野を広げて私たちを取り巻く環境や社会が人間にどのような影響を与えるのか、他教科とも連携をとりながら多角的に学びを深めていきます。



# 音楽科

自分たちで創り上げる喜びを  
～音楽を通して集団を育む～

合唱とキーボードを中心とした授業を行っており、ひとり（個人）ではなく、みんな（集団）でひとつの作品を創っていく中で集団の力を高めていくことが目標です。

作品を創るのは生徒である皆さん自身なので、授業の中でも教員ではなく生徒が中心となって創っていきます。

器楽の授業では、自分専用のミニキーボードを使ってさまざまな曲に触れていき、学年が上がるとグループで1曲を完成させるアンサンブルを行います。

合唱は言うまでもなく、周りの人たちとの協力で創りあげることが必要不可欠です。クラス、学年、全校単位などさまざまな規模で合唱をする機会があり、年1回行われる合唱コンクールは毎年とても盛り上がる行事です。

音楽の授業を通して、感じる心やコミュニケーション能力、表現力などを育み、協同で作品を創り上げる経験は大きな感動につながります。



美術(卒業制作)



美術



工芸(卒業制作)



工芸(卒業制作)



美術



美術



工芸(卒業制作)

# 美術科

観察や発見を通して描くことは  
ものを知ることに通じる

絵をただ描くだけではなく、観察や発見を通して生徒が自分自身のものの見方と表現力を育むことを大切にしています。

例えば透明な酒ビンを描く課題では、まず最初にどういったらゴロンと立体的なビンに描けるのかを考えます。そして視点を固定して斜め上からビンを見ると、口や底が規則を持った楕円に見えるという事実を「発見」し、それを紙の中に再現することで立体的にビンが描けることを経験します。このように「なぜ?」「どういったら?」という視点で対象や自分の身の回りの世界を見つめ、発見を通して表現する力を身につけていきます。

ゆったりと設定された制作期間のなかで、クラスメイトや先輩たちの作品から刺激を受け、「こんな風に描きたい」「どういったら伝わるだろうか…」と表現を試行錯誤しながら、技術と同時に思考する力も成長させていきます。

こうして生徒自身の視点や想像による発想力と、具体的な技術力の双方を育てることにより、自信に満ちた自由な表現力の獲得を目指します。



工芸(卒業制作)



工芸(卒業制作)



木工(卒業制作)



木工(卒業制作)



木工(卒業制作)

# 木工・工芸科

自分自身の手でつくり  
ものづくりの喜びと価値を知る

木工の授業では、原木製材からさまざまな道具を使って食器や家具などの製作を行います。図面をいかたり安全に道具を使うために機械の構造も学習します。

小さな作品からつくり始めて、3年次にはグループで家具づくりを行います。仲間と協同でデザインから製作までを行い、各生徒がすべての作業に参加します。工夫と努力を通じて喜びを得られる授業内容です。

工芸では織りと染めを自らの手で行います。織り機の製作から始めて、糸を一本一本丁寧に織り重ね形にしていきます。どの作業も集中と根気が必要で、時にはやり直すこともあります。自分の表現を達成するために、一つひとつ克服しながら作品をつくり上げる喜びを育みます。

各授業ではさまざまな加工技術を学ぶと同時に、自然の材料を生活空間に取り入れる「ものづくり」の在り方について考える機会にもしています。思い描くイメージを形にする柔軟な発想力や多様な価値観を身につけることを大切にしています。



# 総合探究科

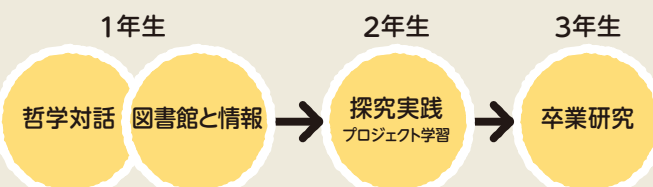
すべての教科と横断的につながり  
主体的な学びをさらに発展させる

あらかじめ用意された知識を吸収するのではなく、生徒たち自身が感じたり考えたことの中からテーマを発見して深く探究していく授業です。与えられた学びではなく、“知りたい、自己を発展させたい、他者や社会と関わりたい”という内発的な動機が存在する学びとなります。

各教科で得た知識や経験を、総合探究科でより実践的なものに発展させたり、逆にこの授業で獲得できる対話、情報処理、課題解決などの能力を日々の学習や生活に活用させるための授業を行います。

## 総合探究科の3年間の流れ

1年生で探究する姿勢や技術を学びます。2年生ではグループで課題達成をする実践的な活動を行い、3年生ではそれぞれの生徒が研究を完成させます。



## 哲学対話

1年生対象[週1時間]

人は毎日さまざまなことを考えて生きていますが、社会や人生の中で出会う複雑で答えの出づらい問いを深く考えたり、うまく考えるにはどうしたらよいのかを学ぶ機会はありません。

哲学的な問いをていねいに思考して他者の意見をよく聞きながら、自らの考えを表現する技術を身につけます。生徒たちは自分とは異なる環境や経験による考え方の違いを想像したり、受け止めたりすることの大切さを学んでいきます。



屋上での哲学対話の様子

## 図書館と情報

1年生対象[週1時間]

身の回りには多くの情報が存在しますが、効果的に活用するためには上手につきあう必要があります。

この授業では、情報をスムーズに探す方法や様々なメディアの特徴、著作権などについて学びます。

図書館やインターネットの活用を通して身につける「調べる」力は探究活動の重要な要素です。自分で「調べる」ことができる疑問や課題を自らの力で解決したり、思考を深めていくことができます。

また、情報の受け手としてだけでなく、情報を整理・分類して発信するために必要な技術を学んでいきます。



卒業研究の発表の様子

## 探究実践

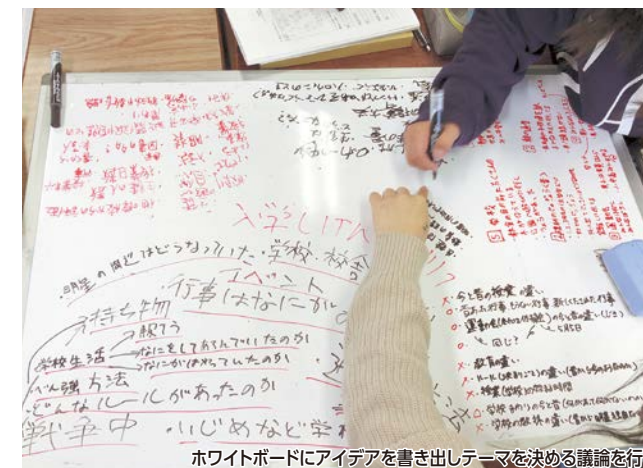
2年生対象[週2時間]

企画立案から発表までを生徒がグループになってプロジェクト学習に向かいます。全員が頭と身体をつかって達成を目指し、お互いの特性を活かし合って他者と協同する授業です。

年間を通して設定されているプロジェクト学習では、それらを達成する具体的な手法として、考えを深めたり発想を得るための思考ツールや、インタビューやアンケートなど情報収集方法についても学びます。ここで学習するブレインストーミング、アイデアの分類・マッピング法などの技術は、3年生の卒業研究でも役立つ重要なものです。

最終発表ではGoogleスライドを活用します。生徒たちは、クラウド上にあるデータを協同編集して発表資料を作成します。

この授業では、他者との対話により視野が広がったり、グループ内で役割を果たすことで新しい自分を発見したり、集団を通して自身の内面の成長が実感できます。



ホワイトボードにアイデアを書き出しテーマを決める議論を行う

## 卒業研究

3年生対象[週1時間]

3年生の1年間をかけ「卒業研究」を行います。これまでにやってきた経験と知識を駆使して、今度は自分ひとりで研究テーマを発見して、調査・取材などの情報収集を重ねて結論まで導きプレゼンテーションを行います。

テーマ設定は特に重要なため、先生やクラスメイトと対話を繰り返し自分の興味関心の根源を探って決定していきます。一人ひとりの生徒についている担当教員はいつもそばにいる心強い相談相手です。

生徒たちの研究対象は多岐にわたるため、保護者や学校関係者をはじめとする大学の先生や専門家の方々には「卒業研究ボランティア」として協力いただきます。

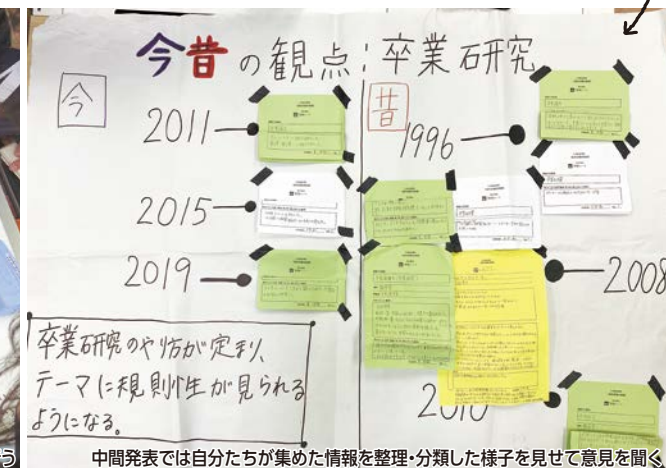
最終的には、これらの研究過程を文章にまとめ、プレゼンテーションを行います。「他者に伝える」活動を通じて、要点をまとめたり、説明を論理的に構成したりする力をつけていきます。

## プロジェクト学習の流れ

提示されたプロジェクトを達成するために、生徒たちは各グループに分かれてテーマ設定を行い、計画や情報収集をしてから発表するまでのプロセスを自分たちで行います。

### プロジェクトの提示

- 1 議論をしてテーマを発見する
- 2 グループによる計画と実行 重要!  
生徒たち自身が、すべき事や仕事の分担などを詳細に計画してそれを実行
- 3 情報の整理と中間発表  
集めた情報を整理・分類して中間発表を行う
- 4 練り上げて最終発表



中間発表では自分たちが集めた情報を整理・分類した様子を見せて意見を聞く

## 生徒たちの研究を 強力にサポートする 卒業研究ボランティア

生徒たちが外に目を向けてみると、世の中にはわからない事がたくさんあります。

そんな時も、保護者や学校関係者の方々がさまざまな形で生徒たちの研究をサポートしてくれます。

大学の先生や専門家に直接会って話を聞いたり、企業・研究機関を紹介してくれたり、さらに講演会やガイダンスなどで生徒たちの研究を具体的に進めるためのアドバイスをしてくれます。



# 卒業研究発表

1年をかけて自分で掘り下げた  
テーマをプレゼンテーションします



5.実験内容

●実験条件  
対象: 体長や外部形態などからクロヤマアリと考えられる  
日時: 2017年11月4日13時34分  
実験環境

表1

|    | 地表面の温度 | 装置内の温度 |
|----|--------|--------|
| 日向 | 36.1℃  | 41.0℃  |
| 日陰 | 20.8℃  | 28.7℃  |

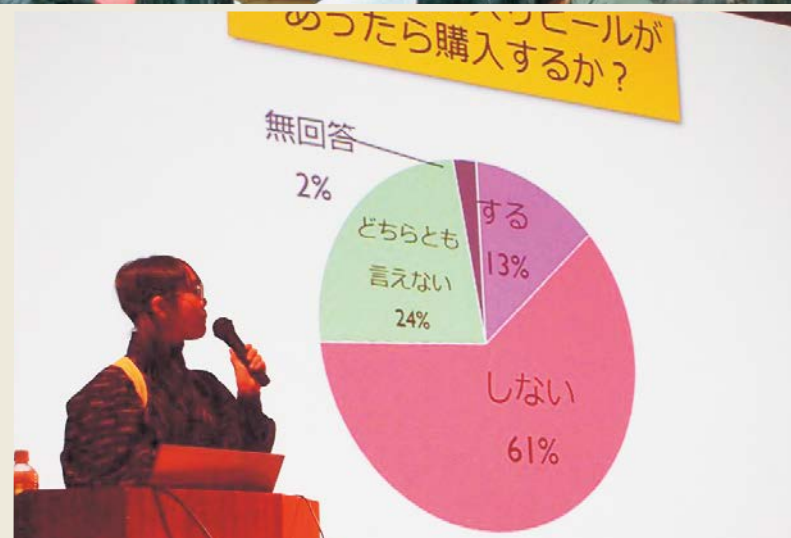
1年を費やして研究した内容を文章として報告書にまとめ、それらを下級生や保護者・一般の方に向けて全員がプレゼンテーションします。

発表当日までの数週間は、担当教員と綿密な打ち合わせやリハーサルの実施などで、最も緊張が高まる時期です。研究の成果をどうわかりやすく伝えるか、どのように説明したら自分のメッセージを受け止めてもらえるかを真剣に考えます。

“小さな関心の種”から始まった研究は、他者・社会とのつながりの中で大きな問いへと成長していきます。こうした意識の変容は、義務教育段階を巣立つ生徒たちの“学ぶ意欲”や“生きる力”の土台となるのです。

生徒たちの卒業研究タイトル抜粋〔2019～2020年度〕

- 日本はどうしたら幸せになれるのか
- 子どもの性格を形成するものは何か
- オカダンゴムシの交替制転向反応の決定に関する感覚器官の影響
- 国によっての考え方や表現の違いはあるのか
- ブラインドサッカーの競技人口を増やすには
- 人は動物と通じ合うことはできるのか
- 日本の抱える外来種問題  
～どうしたら外来種を減らせるのか～
- ファッションはSDGs達成の一助となり得るのか



## 教科外活動①

仲間と協同する中で他者を知り  
自分を発見していきます

運動会や合唱コンクールなど多くのイベントで生徒の実行委員会が組織され、生徒たちは仲間と協力しながらイベントの運営にあたります。運動会は小学校と合同で開催され、中学3年生はその企画から運営までを中心に行います。3年生が考えたオリジナルの応援を1、2年生に教え、縦割りで競う「応援合戦」は、毎年大いに盛り上がります。行事を終えるごとに、仲間とともに成長する生徒の姿があります。

## 体験学習・修学旅行

各学年に用意される体験学習での仲間との生活を通して、友人や自分自身のことを深く知るきっかけを得ます。国内の異文化に触れることは日本の文化の中にある“内なる多様性”を自覚することに繋がるので、2年生の奥阿賀民家泊や3年生の修学旅行での沖縄伊平屋島民家泊体験は、全員に課すグローバル教育の一環とも言えます。

このような経験は個々の生徒にとってたとえどのような進路（すすみち）を目指そうとも、自分の世界を広げるために一歩行動を起こすときの大きな勇気となります。



運動会



合唱コンクール



マラソン大会



### 八ヶ岳登山（1年生）

全員が赤岳鉱泉小屋（標高2300m地点）に2泊し、3000m級の頂上を目指します。

自分の足だけが頼りですが、ペースを守りながら仲間と歩いているうちに、体力勝負ではないことに気づきます。自分と向き合うことの厳しさ、励ましあい頂上に着いた時の喜びを共有できる仲間の大切さ。日常から離れた空間だからこそ出会える経験があります。身体や精神の可能性を広げ、協同性や主体性を学ぶ絶好の機会になっています。



### 奥阿賀（2年生）

奥阿賀は新潟・山形・福島三県の県境に位置する、90%以上が山と川という自然に恵まれた土地です。豊かな自然に囲まれた新潟県奥阿賀地域で、民家泊を体験します。「家族の一員」として、田圃や畑での農作業、薪割り、郷土料理づくり、川遊びなど各家庭で貴重な農村生活を体験させてもらいます。厳しくも豊かな自然と温かい奥阿賀の方々との生活で、人は誰かに支えられて生かされている、ということに気づくはずで。



### 沖縄修学旅行（3年生）

4泊5日にはさまざまな「出会い」が待っています。民家泊での「新しい大人」との出会い。コース別体験での、沖縄特有の多様性に富んだ美しい「自然」との出会い。紅型や三線など独自に発展・継承されてきた「琉球文化」との出会い。さらに貴重な史跡や文化遺産を訪れ、琉球史から戦中・戦後、そして現代へつながる「歴史」も学びます。

都会での日常とは違う、その土地ならではの価値観や多様性との出会いが、自分の世界を大きく広げていきます。



## 教科外活動②

### 外部の方を招いての「特別授業」

学びは教室の中だけで完結するものではありません。

各分野の専門家に会ったり、社会で生き生きと活躍されている方のお話から、生徒たちは大きな刺激を受けるのです。

豊かな経験を持つ彼らの話に生徒たちは興味深く耳をかたむけます。そして問題の奥深さを臨場感をもって感じ、深く考えるようになるのです。



柳亭小庵楽氏(卒業生)の落語の授業

#### これまでの 特別授業の一部を 紹介します

#### 21世紀を生きる君たちへの期待

医師、松本市長：菅谷昭氏

#### 浅川巧の生き方

～「共に生きる感覚」とはなにか～

学芸員：畑口勇人氏

#### 写真で伝える仕事

～カンボジア、東北の被災地から～

フォトジャーナリスト：安田菜津紀氏

#### 明星とわたし ～中学時代の「トンボの

自由研究」から研究者の道へ～

千葉大特任助教：高橋佑磨氏(卒業生)

#### アイヌの文化を学ぶ

「ヤイレнка」の皆さん

#### 世界で今、起きていること

ダグラス・ラミス氏

#### 落語の授業

落語家：柳亭小庵楽氏(卒業生)

#### 夢を叶える

宝塚：沙央くらま氏(卒業生)

#### 私のイルカ研究

京都大学野生動物研究センター修士課程：

田島夏子氏(卒業生)

◎講演者の所属は講演当時のものです。

## 国際理解教育

### 多様な価値観を理解する柔らかさ 自己をしっかり持つ強さと厳しさ

人との関わりを通じて相手を理解すること。その先にあるのは自分自身を深く知ること。それは自分たちを取り巻く社会や環境を知ることにもつながります。明星学園ではそのようなことを文化や国境を越えて感じ取ることができる、さまざまなプログラムを用意しています。

総合英語（ネイティブの先生とのTT※1）の授業や高等学校を中心に行われるインターナショナルウィーク、タイ・オーストラリアへの短期留学などで異文化と出会い、国際交流を行います。

また、「特別授業」でのさまざまな大人との出会いも自分の世界を大きく広げる役割をはたしてくれます。

さらに学内の活動だけではなく、オンラインで実施されている良質のイベントの紹介も積極的にしています。世界で起きていることを「他人事」ではなく、「自分事」として想像できる生徒になってほしいと願います。

生徒たちが自発的に学びへと向かうための多くのきっかけが、明星学園での生活の中にはちりばめられています。



## 校内で行われる国際交流

6日間にわたって行われる高等学校主催のインターナショナル・ウィークでは、タイやドイツなどから短期留学生を招き、授業の見学や参加、クラブ体験、日本文化体験を通じ、中学校・高等学校ともに在校生たちと交流をはかります。中学生は歌を披露したり、共に踊りを踊ったり、ゲームをしたりする中で、言語を超えて打ち解け、素直な気持ちでお互いへの関心を高めます。毎年、短期留学生のホームステイ先として、多くの在校生のご家庭にご協力いただいています。

### 短期留学（希望者のみ）

長期休みを利用した10日間のタイ短期留学・2週間のオーストラリア語学研修を行っています。※2

タイ留学は異文化交流を中心に行われ、文化や生活習慣の違いなどに大きな刺激を受けつつ、現地の生徒とは共に母国語ではない英語を共通言語に、どうやったら想いが通じるか試行錯誤しながら交流します。

オーストラリア留学は語学研修のために、現地の小学校に通います。小学生の話す英語は日本人中学生の英語力でも理解しやすく、気軽に会話ができるので短期間で打ち解けることができます。

帰国した生徒たちは「相手をさらに知りたい」「もっと自分を伝えたい」という強い思いから、英語や異文化について学ぶ意欲をより一層高め、積極的に学んでいきます。高等学校になると、さらに多くの留学プログラムが用意されています。

### 高等学校の留学制度について

明星学園独自の制度を活用して留学する「特別留学制度」では、一年間の長期留学プログラムとして、タイのホアピン学園、ドイツのメンデルスゾーン・オーパーシュレ、オーストラリアのセント・ピーターズ・アングリカンカレッジの3校への交換留学を用意しています。また、外部の留学斡旋団体や、個人で留学をする「一般留学制度」を利用した場合、世界中のどここの国でも正規の学校であれば、明星学園に復学した段階で卒業単位の一部として認定されます。



インターナショナルウィークに和太鼓部が演奏を披露



タイの学校で日本文化を紹介する様子



タイの国内観光



オーストラリアの学校に通う様子





## クラブ活動

クラブ活動への参加は自由ですが多くの生徒がクラブに参加しています。生徒たちはクラブ活動の場でも主体的に活動する機会が多いため、教員やコーチによる指導だけではなく仲間や上級生によるサポートのもと、明るい雰囲気が進められています。

いくつかのクラブは高等学校と合同で活動しています。

◎年度ごとに変更になる場合があります。

### 中学校のクラブ

- バスケットボール部 ●バドミントン部
- 野球部 ●サッカー部 ●美術部
- 漫画研究部 ●書道部 ●木工部
- 囲碁将棋部 ●演劇部 ●山歩き部
- 合唱部 ●国際交流部

### 中高合同のクラブ

- 陸上部 ●弓道部
- 卓球部
- 器械体操部
- 和太鼓部
- アンサンブル部
- 鉄道研究部

### 高等学校のクラブ

- 野球部 ●女子バスケットボール部 ●男子サッカー部
- 男子バスケットボール部 ●バドミントン部 ●剣道部
- ハンドボール部 ●女子バレーボール部 ●美術部
- 音楽部 ●理科部 ●ファッション部 ●写真部
- ダンス部 ●サンバ部 ●演劇部 ●国際交流部
- 料理研究部 ●漫画イラスト部

#### 和太鼓部 中高合同クラブ



### 和太鼓を通じて暖かみのある交流を教室だけでは学べない大切な経験

和太鼓部は中学生と高校生が一緒に活動していて、ほとんどの練習が高校キャンパスで行われます。

太鼓を叩くだけでなく体力作りも大切にしています。体を鍛えながら自分を見つめ、仲間と気を合わせてひとつの音を叩き出します。

中学生は高校生ほど演奏の機会はありませんが、入学式・卒業式など学内行事での演奏だけでなく、小学校公演やイベント出演など学園外での舞台もあります。

小さな子どもたちからお年寄りまで、誰にも喜んでいただける演奏ができるように、一生懸命練習に取り組んでいます。

高校生部員は何度も東京都の代表として全国大会に出場し、2010年の宮崎大会と2014年の茨城大会で優良賞（ベスト4相当）、そして2015年滋賀大会では最優秀賞・文部科学大臣賞を受賞し、国立劇場大ホールで行われた優秀校公演にも出演させていただきました。

#### アンサンブル部 中高合同クラブ



### オーケストラ演奏で仲間と奏でる喜びを

1975年に創部。現在は中学生と高校生の約50名が在籍していて、オーケストラ演奏ができることが大きな特徴です。

オーケストラと吹奏楽の違いはわかりますか？ 管打楽器のみの吹奏楽と異なり、オーケストラにはヴァイオリンやチェロなどの弦楽器パートがあります。本校のようにオーケストラができる学校は多くありません。

特に弦楽器は「幼少期から始めなくてはいけない」と思われがちですが、ほとんどの部員が中学1年生で初めて楽器を手にして、先輩やトレーナーに教わりながらメキメキと上達し、高校生になる頃には演奏会で堂々とソロを披露するまでに成長します。

オーケストラだけではなく管楽や弦楽など、さまざまな形で音楽を楽しむことができます。

2013年にはしおかぜ総文祭に管弦楽部門都代表として出場。全国選抜高等学校オーケストラフェスタにも毎年出場しています。音楽好きな人、大勢で何かを創るのが好きな人はぜひアンサンブル部へ！

#### 弓道部 中高合同クラブ



### 弓道を通じて自分と向き合い礼節と協同性を身につけます

2006年創部。弓道場のなかった創部当初は、学内で藁を束ねた“巻藁”に矢を射る練習のみで、週1回公共弓道場で練習するという日々でした。

地道な練習の成果で、地区大会や都大会で入賞したり、インターハイ出場や国体選手の輩出などの実績を認められ、2016年春について新弓道場が完成しました。

中高生合同で班を組んで上級生が下級生を指導しています。中学生は平日に2日と全員練習の土曜日に練習をして、顧問とコーチと先輩たちの指導のもとで基礎から上級まで楽しみながら鍛錬を積んでいきます。

「正しい射形で、平常心を保つ」これがクラブの伝統です。

弓道連盟に登録して段級審査にも挑戦し、中学生ではなかなか取れない初段に合格する生徒も出ています。

中学生による最近の大きな成果は、2019年3月の東京都中学校遠大会で女子チームが準優勝。2019年7月の東京都中学校弓道団体選手権大会で男子チームが優勝しました。都大会でのチーム優勝は本校にとって初めての快挙です。

#### 陸上競技部 中高合同クラブ



### 競技力だけではなく人間力の成長を大切に活動します

中学校の部員数が大幅に増えて、部員全員で井の頭公園の陸上競技場で練習を行っています。クラブ全体での練習時間を90分以内に設定して短時間集中の密度の高い活動をしています。

陸上競技部としてもっとも大切にしているのは人間としての成長です。競技だけでなく、それ以外にもしっかりと取り組める選手は社会に出てからも応援されます。そのため競技以外の場面にも目を配り厳しく指導しています。

このような運動能力だけでなく人間力の成長を通じて、部員たちは主体的に練習などに取り組めます。競技や能力に関する目標を特に課さなくても、自然と高い目標を持ち達成しようとする楽しさを学んでいます。

都大会で優勝や全国大会への出場、東京都駅伝での7位入賞などの成果を残す部員も増えてきています。

それぞれの部員が陸上競技を始めたきっかけや、その思いを大切にクラブなので、走ることが好きな人や脚が速くなりたい人、運動を始めてみたい人など、ぜひ一緒に活動しましょう。



## 主な進学先

2017～2021年卒業生の現役合格実績

### 国公立大学

一橋大学  
東京外国語大学  
東京藝術大学  
東京海洋大学  
東京学芸大学  
東京都立大学  
山形大学  
信州大学  
埼玉大学  
静岡大学  
沖縄県立芸術大学 他

### 私立大学

|         |        |            |             |
|---------|--------|------------|-------------|
| 早稲田大学   | 明治学院大学 | 東京農業大学     | 武蔵野美術大学     |
| 慶応大学    | 武蔵大学   | 東京薬科大学     | 東京造形大学      |
| 上智大学    | 獨協大学   | 北里大学       | 女子美術大学      |
| 東京理科大学  | 國學院大学  | 杏林大学       | 日本女子大学      |
| 明治大学    | 日本大学   | 聖路加国際大学    | 東京女子大学      |
| 青山学院大学  | 東洋大学   | 日本獣医生命科学大学 | 白百合女子大学     |
| 立教大学    | 駒澤大学   | 麻布大学       | フェリス学院大学    |
| 中央大学    | 専修大学   | 順天堂大学      | 立命館大学       |
| 法政大学    | 東海大学   | 日本体育大学     | 立命館アジア太平洋大学 |
| 国際基督教大学 | 芝浦工業大学 | 国立音楽大学     | 同志社大学 他     |
| 学習院大学   | 工学院大学  | 桐朋学園大学     |             |
| 成蹊大学    | 東京経済大学 | 洗足学園音楽大学   |             |
| 成城大学    | 東京電機大学 | 多摩美術大学     |             |

## FAQ よくある質問と回答

12年一貫教育となっていますが、  
中学校から入ることで困ることは  
ないでしょうか？

生徒はすぐに慣れ、全く心配はいりません。学びにおいて自由に自分を表現できる内部生の子どもたちは、外部生にとって安心して意見を言える雰囲気を作ってくれます。また逆に、中学校から入ってくる多くの外部生との出会いは、内部生にとって大きな刺激となり、自分の世界を広げるチャンスを作ってくれます。ご安心ください。

授業についていけない場合、  
補習等の体制はあるのでしょうか？

基本的に課題に取り組む姿勢ができていれば、授業についていくことはできます。ただし、「わかる」と「できる」は違います。年間5回の報告書では、提出物や小テストの状況、授業での様子を含め教科ごとに詳しい報告があります。もちろん理解が不十分であったり、課題の提出ができていない場合は補習を含め、細かく日常的に補いを行います。

おとなしくて、なかなか自己主張の  
出来ない子なのですが、  
大丈夫でしょうか？

明星学園というと、「明るく元気」というイメージがあるかもしれませんが。しかし実際には、様々な子がいます。休み時間は一人で静かに本を読んでいるのが好きな子、ぼーっとしているのが好きな子もいます。そういう子が変に干渉されず、自分の時間を持ちながらみんなと一緒にいられるのが明星学園です。

ただ、自己主張ができる人間になってほしいというのは明星学園の目標でもあります。いやなことはいやと言えなければならない。おかしいと思ったらおかしいと言えなければならない。ただ、どう表現するかは様々ではありません。

実は明星学園の授業の方法は、これを鍛える中身を持っています。入学当初はなかなか自分の考えを言えない生徒もいるかもしれませんが。でも心配いりません。自由な雰囲気の中できっと成長していきます。むしろ、人の話を聞く前に、自分は自分とは自己主張する（本当の自己主張とは言えません）子の方が、その後の成長を考えると心配なくらいです。

## 沿革



創立時の生徒(小学1～3年生)と創立者たち

## 武蔵野の自然の中で、自主・自立を育み 子どもたちを主体的に学びへと向かわせる教育の場

明星学園は1924年（大正13年）に創立されました。赤井米吉、照井猪一郎、照井げん、山本徳行の4人の創立同人（教員）により小学校が開設されました。

建学の教育理念は、『個性尊重・自主自立・自由平等』です。この教育理念の下で、明星学園独自の校風を築き上げ、90年余の歴史を刻み、今日に至っています。

大正デモクラシー運動高揚のなかで生まれた自由教育運動は、当時の管理主義的画一教育から子どもたちを解放し、子どもの個性や自主・自立を尊重する教育運動でした。

その代表的教育者の一人、成城小学校の沢柳政太郎に強い影響を受けた創立同人4人の、“武蔵野の自然のなかに子どもたちを解放し、自分達の理想を高く掲げた学校を開校したい”という熱き思いにより、明星学園は誕生したのです。したがって、建学の教育理念は、大正自由教育運動を色濃く反映したものであり、その教育が子どもたちの解放をめざし、子どもを一個の人格として教育する人間教育として創立以来息づいている所以でもあるのです。

小学校開設のとき入学した最上級生の卒業にあわせて、1928年（昭和3年）に中学部（旧制中学校）と女学部（旧制高等女学校）が開設されました。また、中学部・女学部開設のため、上田八一郎が部長（校長）として参加しています。この中学部・女学部が戦後の学制改革で男女共学の中学校と高等学校に改組され、今日あるような学園の体制になりました。

戦中・戦後と幾多の世相の変化のなかで、明星教育も紆余曲折はありますが、その基本理念や初代校長の信条は今日まで一貫して流れ続けています。



1960年代の高等学校校舎



1930年代の女学部。中央に座っているのは赤井園長。

2024年に創立100周年！



SINCE 1924 大正13年創立





## 明星学園へのアクセス

### 最寄り駅への路線図



### 最寄り駅からの地図

駅から徒歩

JR吉祥寺駅から 約15分

京王井の頭線  
井の頭公園駅から 約10分

駅からバス

JR吉祥寺駅から 約10分

JR吉祥寺公園口、丸井前4番のバス停から「明星学園前」行(小田急バス)に乗車。終点「明星学園前」下車。約15～30分間隔で運行。

JR三鷹駅から 約10分

JR三鷹駅南口駅前から「三鷹の森ジブリ美術館経由 明星学園」行に乗車。終点「明星学園前」下車。約30分間隔の運行。



明星学園中学校・高等学校 [2021年5月1日発行]

〒181-0001 東京都三鷹市井の頭 5-7-7 TEL 0422-43-2196 FAX 0422-47-6905 ウェブサイト <https://www.myojogakuen.ed.jp/>